令和　7　年度　　園評価書

園番号　　２２　　園名　中田こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標		評価指標	0	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
すきがいっぱい こども園	自分の好きを見つけよう “ドキドキ、ワクワクみ～つけた”	1	自分たちで好きな遊びを見つけて、工夫したり試したりしながら繰り返し遊ぶことを楽しんでいる	保育者が子どもと一緒に遊んでいく中で“好き”を探り遊び出しの環境を工夫したり、様々な素材や道具の準備をすることで子どもたちが“○○したい”と好きな遊びを見つけ、自分たちで考えて組み合わせて遊んだり、試行錯誤して繰り返し遊ぶ姿が増えてきている。●一方で、遊びの中でうまくいかないことがあるとすぐにあきらめてしまったり、試したりすることなく遊びが続かないことがある。引き続きクラスの友だちや他学年の友だちとの関わりの中で、遊びを真似したり”やってみたい””こうしたらどうなるんだろう”などと試したりしたくなるような環境を用意していく	A	A	・以前、保育参観をさせてもらったが、環境や素材を整え、子どもが遊びたくなるような環境構成ができている ・保護者アンケートで、幼児の評価が高く、乳児の評価が低いということは、幼児は、「こんなことがあった」と話をしてくれので遊びの様子がわかるが、乳児は、言葉でその日のことを語ったり伝えたりできないからではないか？園の発信の仕方に工夫ですね ・畑での野菜作りにも力を入れている。また、ドングリや木の実を使った遊びは、十分楽しんでいるので、BではなくA評価でよい	・保育教諭も一緒に遊びながら、子どもの興味を捉えて環境を整えたり、挑戦する姿を励ましたりし、あそびの過程を大事にし、「できた！」という達成感を感じられるようにしていきたい ・クラスの友だちや他学年の友だちとの関わりの中で、遊びを真似したり”やってみたい””こうしたらどうなるんだろう”などと試したり工夫したりしたくなるような環境を今後も用意していく
		2	保育者や友達に、話を聞いてもらう経験を積み重ねる中で、感じたことや思ったことを、自分なりに表現しようとしている	子どもの思いを丁寧に受け止めてきたことで、自分の気持ちを言葉や表情、仕草、態度で伝えようとする姿が増えている。また、思いを言葉で伝え合いながら遊びを進めたり、問題を解決しようとする姿が見られるようになってきている。●一方で、思いを表現できずに周りの様子を伺ったり、困ってしまったりする場面もある。子どもの表情やしぐさに共感し、受け止め言葉にかえていくことで子どもが思いを表現できるようにしていく	A	A		・子どもの表情やしぐさに共感し、受け止め言葉にかえていくことで子どもが思いを表現できるようにしていく。また、子どもの姿が伝わるドキュメンテーションの配信や送迎時の伝達を工夫したい
		3	身の周りの自然に興味を持ち、自然の不思議さや面白さに気づいたり、遊びに取り入れたりしている	散歩で見つけたドングリや木の葉を園に持ち帰ったり、様々な種類の木の実や葉を用意したことで、大きさや形、色、手触り、匂い、葉っぱの柔らかさ、自然物による音の違いに気づき、製作、ままごと楽器作りに発展する姿も見られた。また、可動式用具（コンテナ、タイヤ、樋など）と自然物を組み合わせて坂道を作り、自然物を転がして繰り返し遊ぶ姿も見られた●散歩先で自然に触れあったり、植物の生長を観察したりする中で、自然の不思議さや面白さに気づく経験を重ねていく。また、保育者も自然への興味関心を広げて植物の知識を増やし、子どもの“なぜ？”や“おもしろい”に共感していく	B	A		・保育者自身が自然への興味関心を広げて知識を増やし、子どもの“なぜ？””どうして”“おもしろい”に共感していきたい

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目		評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	4	それぞれの学年の、子どもの様子や遊びについて園内研修等で共有し、異年齢のつながりや、遊びが充実している	園内研修の中で、子どもの遊びの姿や保育者の関わりがどんな子どもの育ちに繋がっているのか“なかだすき畑シート”を使って、語り合うことで共通理解がしやすくなっている。また、“園庭地図”を使って語り合うことで、他学年の様子や今楽しんでいる遊びを知るきっかけとなっている。遊びを進めていく中で「他学年の友達を誘いたい」という子どもの思いがでてきて、お店屋さんごっこや、お祭りごっこなどの遊びにも発展した●学年を超えて、子どもの遊びの広がりを共通理解するために、遊び地図を使って子どもの姿について語り合い、共有し遊びに合わせた環境作りに努めていく	B	B	・若い保育者には、なかなか自分の意見が言えない所もあるのではないか。自分の意見を言える雰囲気があるとよいと思う。また、人によって捉え方に違いがあり、若い人にこちらの意図やニュアンスが伝わらないこともある。その都度、どのくらい伝わったのか確認をしたり、丁寧に伝えたりすることが大切ではないか ・保育者は自分たちの研修について辛口なのではないか？保護者の評価もよいのでここはAでもよいのではないか ・だしは顆粒だしを利用している家庭も多くまた、魚は、切り身しか見たことがない子も多い。だしの飲み比べやマグロの解体など五感を使った良い活動をしているので、ダブルA（AA）でもよいと思う ・災害時に一番心配なのはトイレであるが、トイレのシュミレーションはできているのか？簡易トイレが１つしかない中、災害時に全園児が使うのは課題がある。実際に災害用トイレを使う経験についても考え、皆で共通理解していけるとよいのですね ・中田小学校では、学級会での話し合いを大事にしている。誰が司会者になるかあらかじめ決めれており、皆の意見をラミネートしたものに書き込み、それを動かせるようになっている。話し合いのやり方や書式がマニュアル化されているため短時間で話し合いができるようになっている ・全体的計画書の冊子の中に書き込む方法で、全員が周知するのは難しいのではないか？役割等は、見えているところに貼ることが大切ではないか？小学校では電子黒板があり、職員が、１日の予定や伝達事項を確認することができる。そんな機能がこども園にもあったら情報共有ができますね ・張り紙も３か月たつと壁紙となり、誰も見なくなってしまう。貼ったものは、更新することが大切である ・小学校は、保護者への情報共有としては“テトル”を使用している。また、子どもの活動は、ホームページで知らせている。 ・子ども園は年4回ホームページで載せています。私立こども園はインスタグラムを使っているところもあります。公立こども園はみんな同じやり方でやってるので、今あるものの中でやっていくしかありません。おたよりも電子化になったことにより、さらりと手紙等を読み、読み込んでいないため、忘れ物が多く、情報が伝わりません	・学年を超えて、子どもの遊びの広がりを共通理解するために、遊び地図を使って子どもの姿について語り合い、共有し遊びに合わせた環境作りに努めていく。また、職員が連携して子どもに応答的に関わっていく ・職員同士が互いに思いを伝え合い、共通認識、共通理解できるようにしていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	5	職員間で、連絡事項の伝達を確実に行ったり、年齢や興味に応じた玩具の見直しを、２か月に１度行ったりしている	昼の打ち合わせや会議の内容を各クラスで報告したり、各自が書面で確認したりすることで、周知できてきている。職員の人数が多い為、今後も一人一人が意識して確実に伝達や確認を行い、わからないことや気になることは声に出し伝えあっていく。環境では、経験したい遊びや子どもの姿に合わせて乳児園庭を作るなど、各学年ねらいを持って拠点づくりを意識した●環境整備の時間確保をするために、担当や期限を決めるなどして定期的に見直しをおこない、整備をしていく	B	B		・玩具や教材を充実させ、長時間過ごす子たちがよりゆったりと過ごせる環境を整えていく。 ・環境整備の時間確保をするために、担当や期限を決めるなどして定期的に見直しをおこない、整備をしていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	6	子どもたちが遊びの中で「気づく」「考える」「試す」姿になるために遊び地図を使って、どのような環境が良いのかを話し合い、準備している	園庭図を使って、職員間で子どもの遊びの姿を共有することで、遊び出しの環境を用意することができ、「～かもしれない」「やってみよう」などの姿へとつながってきている●一方で、それぞれの学年の遊びが見えていなかったり、共有されていなかったりという課題もある。今後も遊び地図を使いながら活発な意見交換をしていく	B	B		・語り合いを行うことで、それぞれの学年の遊びを把握する。様々な材料や素材と出会い多様な経験が積み重なっていくよう、見通しをもち十分な教材の準備をしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	7	職員、園児ともに減災について知り、様々な災害を想定した訓練を実施している	散歩中に起きた地震や、地震による断水また、震度や揺れの大きさを想定した訓練を行ったり、訓練の際に危険個所を見つけ、自分の命を守るにはどう動いたらよいかなど、”減災”について子ども達と一緒に考えたりすることで、子どもと職員も自ら考え避難しようとする姿に変わりつつある。不審者訓練では、合言葉の見直しを行い全職員で共通理解した●引き続き、子ども達と一緒に身を守る方法を考えたり、災害時や緊急時における職員の役割分担を確認し、共通理解を図っていく	A	A		・子ども達と一緒に身を守る方法を考えたり、簡易トイレを使い方を知ったりする。 ・災害時や緊急時における職員の役割分担を確認し、共通理解を図っていく。反省や課題を昼の会議で報告して共有し、防災に対する意識を高めていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	8	玄関の食育コーナーの掲示物や食育だより を通して、噛むことの大切さや食べることの楽しさ等を知り、家庭と一緒に食への意欲を育てている	マグロの解体やお月見団子作り、だし汁の試飲など内容に持ち方を工夫したことで（集会、学年など）、見たり触れたりする体験が増え、子どもたちの食への関心や意欲が高まってきている。また、食育だよりの配信や、玄関の食育コーナーの展示、レシピを置くことで、親子で見たり、触ったり、「今日“かみかみメニュー”だったよ」「これ作って」などと話をしながらレシピを持ち帰る姿や親子の会話が増えてきている。●引き続き玄関の食育展示を工夫し、発信していくことで、家族で食について考える機会となるようにして行きたい	A	A		・子どもたちが食に関心が持てるように食育の会では内容を工夫していく ・玄関の食育展示を工夫し、発信していくことで、家族で食について考える機会となるようにしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	9	こどもの姿や表れに対し、誰もが同じ手立てで関われるような表を作成し、職員間で支援方法を共有している	支援児のプロフィールシートを作成したり、担当者以外の職員が支援会議や支援の会に参加することで、会の様子や、関わり方について知ってもらうきっかけとなっている。また、支援会議の様子などを会議後クラスに持ち帰り報告をしたり、書面で回覧したりすることで、園全体で支援するという意識が高まってきている●今後も支援会議や支援の会に様々な職員に参加してもらい、支援方法や一人ひとりの様子、担任の思いなどを共有することを継続して行っていきたい	B	B		・支援会議や支援の会に様々な職員に参加してもらい、支援方法や一人ひとりの様子、担任の思いなどを共有することを継続して行っていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	10	各分掌の進捗状況がわかるような表を作成し、昼の打ちあわせファイルを活用しながら、職員間で情報共有をしている	年間計画をもとに、分掌担当が責任を持って進めている。進捗状況については、共有方法を見直し、全体的な計画の冊子に書き込むことで、課題、来年度に生かしたいことなどの共通理解ができつつある。●今後も分掌が時間の確保を工夫し、定期的な話し合いをし、職員会議で報告をしたり、文書を回覧したりして全体におろし、皆で協力して進める体制を継続していく	B	B		・定期的な話し合いをし、職員会議で報告をしたり、文書を回覧したりして全体におろしたり、課題や、やるべきことなどを見える所に貼りだすなど皆で協力して進める体制を継続していく
6 研　修	(1)研修体制の充実	11	子どもの遊びの様子や「おもしろい」「たのしい」姿につながった環境について、職員間で語り会う時間を月１回設けている	公開保育時に”なかだ好き畑シート”を活用し、シートに子どもの姿や環境、関わりを加筆するようにしたことで、子どもの姿を捉えることができるようになってきた。また、研修に参加できない職員には研修部が中心となり、内容をわかりやすくまとめたものを配布して周知することで、子どもの姿に合わせた環境作りにつながっている●一方で、職員間で子どもの姿を語り合う時間が少ないことが課題である。今後も、遊び地図を活用した昼の語り合いの時間を確保し、次週の遊び環境にいかしていきたい	B	B		・遊び地図を活用した昼の語り合いの時間を確保し、次週の遊び環境に活かす
7 教育・保育環境　整備	(1)教育・保育環境の充実	12	子どもたちが、今楽しんでいる遊びのどこにおもしろさを感じているのかを職員間で共有し、朝の遊び出しの準備をしている	子ども達と一緒に遊ぶ中で、その遊びの何を楽しんでいるのか、子どもの”すき”をクラス間や学年間で共有できたことで、遊び出しの環境が充実してきている。また、子どもたちの”やりたい”を叶えられるような環境を準備することで、子どもたちが自ら主体的に遊び出したり、遊びを進めたりする姿が増えてきている ●一方で、他学年とのつながりが少ないため、職員間で園庭、室内環境図を使った話し合いを定期的に行っていき、子どもの遊びを予想しながら環境の準備したり、再構成をしたりして子どもの”やりたい”気持ちにつなげていきたい	A	A		職員間で園庭、室内環境図を使った話し合いを定期的に行い、子どもの遊びを予想しながら環境の準備したり、再構成をしたりして子どもの”やりたい”気持ちにつなげていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	13	遊びの様子や過程をクラスだより等で伝え、保護者と成長の喜びを共有することができている	日頃から、子どもの様子を伝える機会を大切にしたり、どの職員でも確実に伝達ができるよう、早遅ボードに伝達事項を書き込み、保護者に伝わるようにしている。また、毎日のドキュメンテーションや毎月のおたよりの配信では、遊びの様子が分かるような写真を選び、姿が想像しやすい文章となるよう心がけている。●送迎時に保護者とコミュニケーションを図っているが、早番遅番にかかる家庭も多く、直接話をする機会が少ない家庭もある。今後も、早番遅番の職員と連携をとったり、遊びの様子やエピソードを少しでも伝えたりできるよう意識していきたい。また、コドモンの配信の内容についても検討していく早番遅番の職員と連携をとったり、遊びの様子やエピソードを少しでも伝えたりできるよう意識していきたい。また、コドモンの配信の内容についても検討していく	B	B		・早番遅番の職員と連携をとり、伝達事項や遊びの様子やエピソードを簡潔に伝えられるよう意識していく ・毎日のコドモンでの配信では、保護者の方に1日に教育・保育内容伝わり、子どもとの会話のきっかけとなるような文章や写真を選ぶ
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	14	近隣園や近隣校の公開保育、公開授業に参加していく中で、情報交換、共有、連携を図ることができている	自園の公開保育に他園や他校の職員に来てもらったり、近隣の公開保育や小学校の公開授業に園の職員が参加することで、職員同士の交流を図る機会となっている。また、年長児が小学校に行かせてもらうことで（笹とり、水汲み、避難訓練など）小学校を身近に感じ、就学への期待につながっている●一方で、近隣園との連携が課題であるため、職員間で情報共有を行い、近隣園と近くの公園で一緒に遊んだり、小学校訪問を通して小学生との交流を行っていきたい	A	B		近隣園の職員間で情報共有を行い、近隣園と近くの公園で一緒に遊んだり、小学校訪問を通して小学生との交流を行っていく
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	15	散歩マップの書き込みを増やしていき、職員間で情報共有をしたり、他学年と連携を図り、見通しを持った園外保育計画を立て実践している	避難訓練時に気づいた危険箇所を散歩マップに書き込んだりすることで、秋の自然探しをしながら、自然物等を見つけた場所を書き込んだりするようにし、職員間で、情報を共有できるようにした。●一方で、気候の変化から散歩に出かける機会が少なくなっているため、分掌が散歩マップの有効的な活用法を検討したり、見通しを持った散歩計画を作成したりし、自然に親しむ機会を作っていきたい。また、地域との連携では、散歩計画だけではなく、近隣の方への挨拶やおしゃべりサロンの充実なども図っていきたい	B	B		・おしゃべりサロンでは保護者の方が参加して楽しかったと思える内容を考えていく ・職員が、地域資源をもっと保育に取り組んでいこうという意識を持つ ・週案や月案に散歩の計画を盛り込んでいく